

中学部 第＊学年 自立活動学習指導案

日時：令和7年＊月＊日 11:45～12:35

場所：中学部＊年教室、本館3階廊下

指導者：古澤 伸二

I 幼児児童生徒の実態、目標、指導内容

実態	・対象生徒は中学部＊年の＊子で、両耳感音難聴（平均聴力右＊dB、左＊dB）で、右耳は補聴器、左耳は人工内耳を装用している。 ・絵画語彙発達検査では、5歳0か月の発達水準である。 ・多くの情報を一度に処理することに課題がある。 ・2～3語の短い指示であれば理解することができる。 ・自己理解が低く、自分の課題に気付くことが苦手である。 ・繰り返し経験したことは身に付けられ活動内容や手順が分かると主体的に動くことができる。 ・聴覚口話を中心に、指文字や手話単語も使いながらコミュニケーションを図っている。 ・自分の気持ちや考えを整理して伝えることが難しい。 ・分かりやすく順を追って話をするのに慣れていない。 ・発音が不明瞭で伝わりにくい。
目標	長期 ○自ら課題に気が付き、課題解決方法を考えて行動することができる。 ○視覚的な情報を適切に活用して作業等を行うことができる。 ○自分の考えをわかりやすく整理して相手に伝えることができる。 ○様々なコミュニケーション方法を活用することができる。
	短期 ○作業学習の場面では経験した課題に対して解決策を考えることができる。＜2－(3)＞ ○作業過程を的確な言葉に結び付けることができる。＜4－(5)＞ ○一番伝えたいことを整理して伝えることができる。＜6－(3)＞ ○ICTツールを活用し、表現・発信することができる。＜6－(4)＞
指導内容 【区分・項目】	・作業場面では、積極的に課題を見つけ、解決策を検討する力を高める。【心(2)(3)】 ・言葉と行動の対応関係を生活の様々な機会を通じて繰り返していく。【環(5)】 ・自分の意見を伝え、合意形成を図る力を高める。【コ(3)】 ・ICTツールを効果的に活用し、表現・発信する力を高める。【コ(4)】

2 指導にあたって

- 自分自身の聞こえにくさによって、人とのかかわる際にどのような困難さが生じるのかや、新しい体験をする際にどのように行動し、周囲に働きかけるとよいのかを考えたり、体験したりすることを通して、積極的に問題解決に向かう意欲を育てることができる。
- 視覚的な情報を適切に活用して、作業過程を的確な言葉に結び付け、言葉と行動の対応関係を生活の様々な機会を通じて繰り返していくことで、その概念を的確に身に付けることができる。
- 作業や体験的な活動を取り入れ、コミュニケーションを通して適切な言語概念の形成を図り、体系的な言語を身に付けることができる。
- 状況に応じて主体的にコミュニケーション手段の選択と活用を図ることができる。

3 題材について

(1) 題材名

聞こえる人と一緒に働くために

(2) 題材設定の理由

○作業学習の振り返り場面では、自ら活動することで課題に気付きどのように改善していけばよいのかを経験する。そして実際に仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な方法で課題を解決することができる力を育てる。

○自分の考えを相手に伝えるためにピラミッドチャートを用いて言葉を整理してから伝える。自分の役割を果たしつつ、他者とコミュニケーションを図り、協力・協働して社会に参画することができる力を育てる。

○状況に応じて主体的にコミュニケーション手段を選択・活用することで情報機器を活用できる力を育てる。

(3) 題材の指導計画

次	時間	指導内容 【区分・項目】	目標(本題材を通して目指す姿)
			指導の手立て
一	3	・作業学習での振り返りをする。 【心(2)(3)】	○課題解決策を考えることができる。 ・KPT法を使い「よくできたこと・うまくいかなかったこと・次に生かしたいこと」を振り返り、学んだことを蓄積したり課題解決力を育成したりする。
		・相手に自分の意見を伝えよう 【人(2)、コ(1)(2)(4)】	○相手意識をもち、よく聞いたり伝わるように話したりすることができる。 ・フレームワーク思考(ピラミッドチャート)により、自分の考えを伝える練習を設定する。
		・ICT機器の活用 【環(4)、コ(2)(4)】	○必要な情報を整理して発信することができる。 ・自分の考えや意思を表すことができるよう新しいアプリや作業支援アプリなどのICTツールを効果的に活用する場面を設定する。
二	2	・ロールプレイングを行う。 「お願いをするときの伝え方」 【コ(3)(4)】 本時	○相手に気持ちを伝えることができる。 ・生徒自身が体験を通して、ICTツールなどの手法を用いて伝える機会を設ける。
		・ロールプレインを行う。 「困ったときの伝え方」 【コ(3)(4)】	○相手に気持ちを伝えることができる。 ・生徒自身が体験を通して、ICTツールなどの手法を用いて伝える機会を設ける。
評価 【評価方法】			□自分の気持ちを伝えようとしている。 【観察・発言】

4 本時の指導

(1)目標

- ・相手に気持ちを伝えることができる。

(2)展開 ※形態の表記は、全体：全、グループ：グ、個別：個

形態 時間	主な学習活動	指導の手立て ※評価は□で囲む
全 5	1. 本時の学習課題を知る。 相手に自分の気持ちを伝えるには？	・聞こえる人と働くために必要なことと自分の課題に気付けるよう、企業見学で学んだことを振り返る。
全 7	2. 課題を見つけよう (1) 動画や画像を見て課題や改善策をカードに書き発表する。 (2) 実際に作業をする。	・作業学習の体験と言葉とを結び付けてイメージとして理解するために作業マニュアルを見て確認できるようにする。 ・自分の課題に気付き改善策を考えることができるよう、拡大画像を提示したり、教師が悪い例を示したりする。 ・言葉の意味を理解できるように新しい語彙や抽象概念については図や写真を用いて視覚化する。 ・理解したことを言語化することで理解できているかを確認する。このとき、理解している単語を正確な文字へ正しく置き換えられるように指文字で確認する。 ・言葉の意味を理解し、実際に作業を行えるかどうかで理解度を確認する。
全 11	3. 自分の気持ちを伝えよう (1) ピラミッドチャートで伝えたいことをカードで整理する。 (2) 伝えることが整理できたらミラリング機能（Bytello Share）で画面共有する。 (3) 相手に伝わりやすいコミュニケーションの方法を選択する。	・自分の考えを整理し焦点化するための方法として伝えるピラミッドチャートを利用し、一番伝えたいことをはじめに話すように言葉かけをする。 ・文作りお助けカードを使うことで言語化し、順序立てて伝えられるように言葉かけする。 ・ポジティブな言い方（リフレーミング）で伝えるように促す。 ・自分の考えや気持ちを的確に言葉にできないときには、予想される単語を事前にコミュニケーションボード上に準備し、伝えたい項目を選択できるようにする。 ・コミュニケーションの方法がたくさんあることを理解できるようにパワーポイントで提示する。
全 22	4. ロールプレイングをしよう (1) リーダーは役割や終了時刻を伝える。 (2) 相手に自分の気持ちを伝える。 相手に自分の気持ちを伝えよう。	・自分の気持ちや意見を伝えることができるように職場（清掃業務）でのコミュニケーション場面を設定する。 ・自分の気持ちが伝えられるようにピラミッドチャートで考えてから伝えるようにする。 ・必要に応じて適切なコミュニケーション手段の選択・活用により円滑なコミュニケーションが行えるよう、タブレット端末を活用して伝えられるようにする。 自分の意見や考えを伝えている。 <6-(3)(4)>発言、行動観察
全 5	5. 本時の振り返りをする。	・振り返りの中でよくできていたことを称賛する。 ・板書を振り返ったときに、キーワードとなる言葉がわかるよう振り返りの際、板書を提示する。

(3)教材・教具

・オリジナル教材 (PowerPoint)、スライドアニメーション、パソコン、タブレット端末 (1人1台)、聴覚障害者のコミュニケーション支援アプリ「こえとら」、アプリ「フリーボード」、編集動画 (生徒の作業の様子)、ピラミッドチャート、文作りお助けカード、補聴援助システム (ロジャー)、コミュニケーションボード、作業道具、ワークシート、ホワイトボード

板書計画

自立活動「聞こえる人と一緒に働くために」

目標 あいて相手に気持ちを伝えよう

ポイント ・伝えたいことを整理する。
・相手を見て話す。

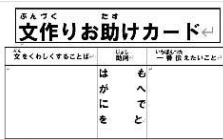
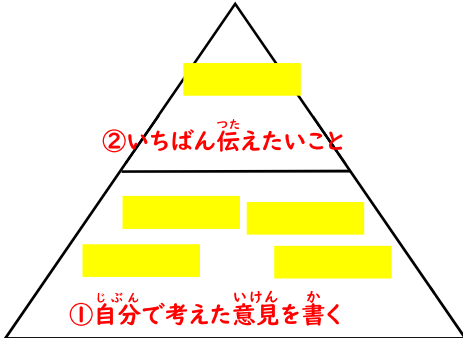
1. 課題を見つけよう

水モップ



作業の写真

2. 自分の気持ちを伝えよう

②いちばん伝えたいこと

①自分で考えた意見を書く

3. ロールプレイングをしよう

場面 あいて相手をお願いをする

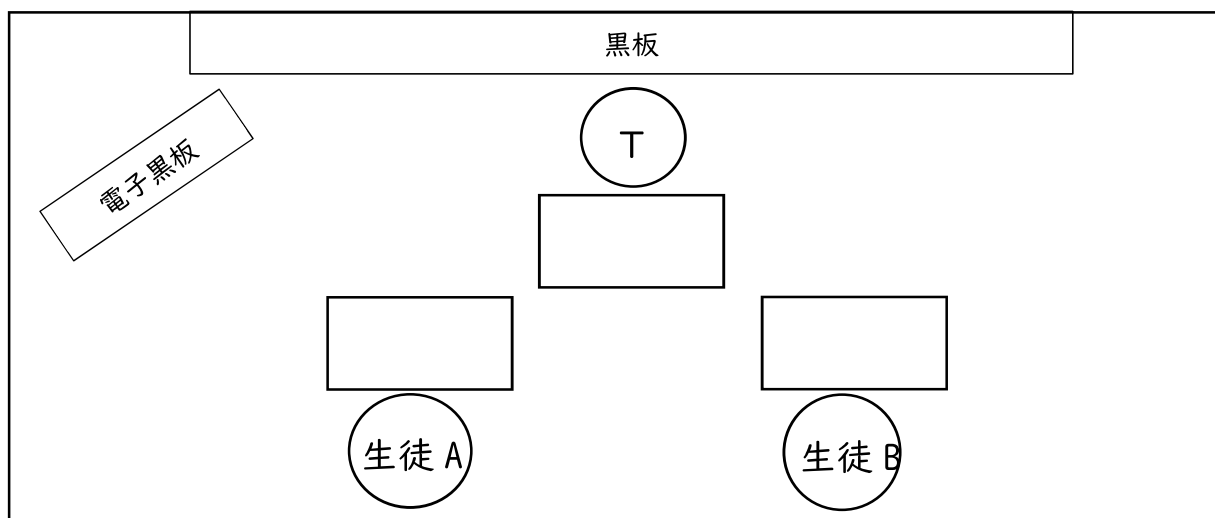
活動 せいそうかつどう 清掃活動 (水モップ)

場所 かいろうか 3階廊下

メンバー Aさん (リーダー)
Bさん (リーダー)
先生 (聞こえる人)

着席時刻 ちやくせきじこく 12時30分

配置図 (教室)



・ロールプレイング

活動場所 : 本館3階廊下

廊下							技術室
中1 教室	中2 教室	中 個別室	多目的室	理科室	美術室	図書室	

・コミュニケーションボード

のらない	水モップ
拭く	はく
じざい 自在ほうき	はし 端